

大型クラゲ等有害生物出現調査及び情報提供委託事業

兜森良則

目 的

大型クラゲ（エチゼンクラゲ）等の出現・分布状況を試験船による洋上調査及び県内漁協・漁業者からの聞き取り等により迅速に把握し、漁業者等に情報提供して漁業被害の軽減を図る。

材料と方法

1. 洋上調査

試験船青鵬丸により本県日本海沖で大型クラゲ目視調査を実施した。

2. 出現量調査

県内の漁協からキタミズクラゲ及び大型クラゲの出現情報を収集した。

3. 標本船調査

キタミズクラゲは六ヶ所村漁業協同組合所属の小型定置網漁船で5月～7月の期間、大型クラゲは新深浦町漁業協同組合所属の小型定置網漁船で9月～2月の期間、入網状況を調査した。

結 果

1. 洋上調査

本県の日本海沖で10月に実施したが、大型クラゲの出現は全く確認されなかった。

2. 出現量調査

(1) キタミズクラゲ

春先に幾らかの発見情報があったが、漁業被害はなかった。

(2) 大型クラゲ

9月3日東通村尻屋（大型定置網）で1尾（傘径80cm）出現したのを皮切りに、日本海、津軽海峡、太平洋の定置網で出現した。1ヶ統の入網数は1～100尾の範囲であったが、ほとんどは1桁台であった。

3. 標本船調査

(1) キタミズクラゲ(表1)

5月の乗網率（揚網日数に占める出現日数割合）は50%で、5月中旬まで1ヶ統10～20個体の入網が見られていたが、以後見られなくなった。

キタミズクラゲと入れ替わって、ミズクラゲ、アカクラゲの入網が見られるようになり、7月にはオオサルバも見られた。特にミズクラゲは1ヶ統当たり最大3トンに及んだ。

(2) 大型クラゲ(表2)

9～11月の各乗網率は75.0%、83.3%、72.7%であった。1ヶ統1～25個体の入網であったが、ほとんどが1桁台であった。12月以後入網は見られなくなった。

表 1. 平成 28 年度キタミズクラゲ標本船調査結果

月	調査 日数	乗網 日数	乗網率	個体数			水温 (°C)	被害の有無
				31 cm 以上	21~30 cm	11~20 cm		
5	8	4	50.0	0	0	65	12.0~13.1	なし
6	18	0	0.0	0	0	0	13.1~15.7	なし
7	15	0	0.0	0	0	0	15.5~17.8	なし

表 2. 平成 28 年度大型クラゲ標本船調査結果

月	調査 日数	乗網 日数	乗網率	個体数			水温 (°C)	被害の有無
				100 cm 以上	51~99 cm	50 cm 以下		
9	12	9	75.0	31	25	0	—	なし
10	24	20	83.3	123	30	0	—	なし
11	22	16	72.7	30	15	0	—	なし
12	22	0	0.0	0	0	0	—	なし
1	16	0	0.0	0	0	0	—	なし
2	16	0	0.0	0	0	0	—	なし